

研究プロジェクト

東日本大震災関連プロジェクト～こころの再生に向けて～

鎌田東二（こころの未来研究センター教授）

■研究の概要

2011年3月11日、東日本大震災という未曾有の災害が発生した。地震・津波・原子力発電所の事故という3つの要素による複合的かつ甚大な影響をもたらす災害を経験したことで、日本における幸福感のあり方、社会関係のあり方は、被災地ではもちろんのこと、その他の地域においても変化した。

本研究プロジェクトでは、東日本大震災関連プロジェクトとして、宗教学・民俗学のアプローチから「こころの再生に向けて」の取り組みを行った。具体的には、「震災後の宗教の動向と世直しの思想と実践の研究」を研究題目とし、鈴木岩弓東北大学教授が事務局の「心の相談室」、島菌進東京大学教授が代表の「宗教者災害支援連絡会」、稲場圭信大阪大学准教授が共同代表の「宗教者災害支援ネットワーク」などとの連携を保ちながら、①伝統文化の心と体のワザ（瞑想・武道・気功など）を活用したメンタルヘルスケア、②伝統文化および民俗芸能・芸術、聖地文化・癒し空間を活用した復興と再生、③脱原発社会の社会デザイン・世直しのありようを模索した。その際、①宗教的「世直し」思想と実践事例の解明とともに、②21世紀文明のありかた、③その中での日本文明の位置とありかた、④そこにおける伝統文化（祭り、芸能、芸道、宗教など）の継承と活かし方、⑤自然と人間と文明との関係の中での「生態智」の再発見・再評価と再構築、⑥聖地などの安らぎや浄化をもたらす「癒し空間」の活かし方、などに焦点を当てつつ考察した。

■研究計画

(A) 「心の相談室」「宗教者災害支援連絡会」「宗教者災害支援ネットワーク」などの活動の追跡と連携：東日本大震災後の宗教者の災害支援活動について

追跡調査し、整理する。

(B) 伝統文化の心と体のワザ（瞑想・武道・気功など）を活用したメンタルヘルスケア：伝統文化の精神・身体技法の活用法を調査・整理し、必要に応じてネットワーク化する。

(C) 伝統文化および民俗芸能・芸術、聖地文化・癒し空間を活用した復興と再生：聖地文化を含む伝統文化や民俗芸能・芸術が被災地の復興にどのように関与するかを調査すると同時に、支援のあり方を実践的に探る。

(D) 世直し思想と実践の解明：宗教的世直し思想と実践の歴史的事例の検証とその現在形を探る。

■活動報告

(1) 2011年5月2日～5月5日、東日本大震災の被災地を巡って：こころの未来研究センターのウェブサイトにて報告文掲載。また鎌田東二『現代神道論——霊性と生態智の探究』（春秋社、2011年11月刊）第4章に収録。

(2) 2011年6月18日、東日本大復興祈願並び犠牲者慰霊大探燈祭（福島県相馬市）：こころの未来研究センターのウェブサイトにて報告文掲載。また鎌田東二『現代神道論』第4章に収録。

(3) 2011年6月19日、宗教者災害支援連絡会・第3回情報交換会（東京大学仏教青年会）：今起きている問題の1つに被災地格差や避難所格差などの問題がある。福島県と、宮城県・岩手県・青森県の被災地とでは大きく事情が異なる。同じ福島県でも避難地区と警戒地区とそれ以外の地域では事情も思いも異なる。原子力発電所の事故を抱えた福島県の問題は複雑で、微妙で、深刻である。宮城県や岩手県や青森県は、100日が過ぎて、遅れているとはいえ復旧・復興への青写真と作業が進みつつある。だが、福島県ではそのような復旧・復興デザインが描けな

い。また、「風評被害」と呼ばれる問題も含め、情報の伝達や判断の困難さが行動を逡巡させ、生活全般を息苦しく、重苦しくしている。

「宗教者」とは何か、「宗教者」ができることは何か、必要とされていることは何か、具体的な個々の活動報告を検討しつつ問題点を整理し、宗教が持っている安らぎや救いや癒しや覚悟のはたらきをどのようなかたちで発揮していくのか、個々の社会実践とともに、幅広い考察や探究が必要でもある。そうした考察や探究に、本研究プロジェクトやモノ学・感覚価値研究会が関与し寄与できるところがあるはずだ。

(4) 2011年7月20日、「京都大学シンポジウムシリーズⅣ：宗教と災害～東日本大震災の現場からの報告と討議」を開催。第1部 コーディネーター・司会：鎌田東二による趣旨説明、基調報告：島菌進教授『「宗教者災害支援連絡会・情報交換会」の活動と課題』、玄侑宗久福島県三春僧侶（作家）「福島県での被災状況と被災地支援の現状および復興構想会議の問題点」、事例報告：稲場圭信准教授『「宗教者災害救援ネットワーク」の活動と課題』、金子昭天理大学教授「新宗教の災害支援活動の事例と課題」。第2部 指定討論：河合俊雄こころの未来研究センター教授、内田由紀子同准教授。

(5) 2011年10月10日～13日、11月6日、東日本大震災被災地追跡調査：こころの未来研究センターウェブサイトにて報告文掲載。

(6) 2011年9月6日・9月12日、天河大辨財天社被災状況報告、2011年11月1日～11月2日、天河大辨財天社被災状況追跡報告：「モノ学・感覚価値研究会」ウェブサイトにて報告文掲載。